



発行責任者：歯学部長 宮崎 隆，編集責任者：広報委員長 佐藤裕二
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000
ホームページ：<http://www.showa-u.ac.jp>

巻頭言 齶蝕・歯内治療学講座

齶蝕・歯内治療学講座教授 松本光吉

歯学部だよりの巻頭言の依頼を受けた。巻頭言は書物や雑誌を発行する際に編集者が短い文章内容の特徴や出版の趣旨について簡単に、最初に述べるものである。今回の歯学部便りについて依頼者に尋ねたところ、思い付いた事を書いてくださいとの事であった。

そこで、これから論文や雑誌の原稿を書こうとする人の参考になればと思い私の原稿作成法について書く事にした。

犬や猫が公園のベンチに座って本を読み、物を書いている風景は、童話集の中だけの出来事であり、現実には在り得ない。では、何故、如何して人間だけが無数の生き物の中で物を書くのであろうか？何か理由があるに違いない。

以上のような疑問はさて置いて、原稿を書き、完成させるためには相当なエネルギーが必要である。勿論、頭の中に整理された知識が無ければ文章は書けない。それに加えて気力と体力がないと、原稿を書き始めても最後まで書き終える事は出来ない。原稿が書けない人の話を聞いてみると資料の整理が下手、起承転結の組み立て方が上手に行かない、最後のまとめの時にエネルギーが集中出来ない事が原因のようである。

数をこなせば原稿は誰にでも書ける。学校の先生や議員の話しを聞いていると最初は自信が無く、話す言葉に覇気も無く、とても聞くに堪えないが何年か過ぎると弁舌爽やかになり、説得力のある話が出来ようになる。原稿を書くのも同じである。最初の数編は大変であるが何十篇か書いているうちに要領が解り慣れてくる。“諦めないで数をこなせ”と言いたい。

いくら精力的に原稿を書いても雑用の多い時には一貫性のある単行本や教科書を書き上げるのは困難である。振り返ってみると、事前に少しずつ資料を整理して置き、夏休みか冬休みに書いている。特に、新しい分野の原稿を書く時は大変である。いくら有能な人でも時間をかけて基礎から勉強して全体を把握していないと原稿は書けない。しかし、有能でなくても、同じ事を何年も何十年も繰り返して行っていると、いつの間にか誰でも大方の原稿は書けるようになる。私の座右の銘は“継続は力なり”である。



報道された歯学部

広報委員長 佐藤裕二

・南雲正男先生：けんぼニュース「口内炎」2004秋、2004.9.3

・真鍋厚史先生：読売新聞「美容歯科」、2004.9.6 http://www.yomiur.co.jp/iryuu/news_i/20040906so12.htm



進路相談会 9月4日

入試広報委員長 山田庄司

歯学部への入学希望者を対象に、歯学部進学相談会(オープンキャンパス)が、千束の歯科病院で7月31日(土)と9月4日(土)の2回行なわれました。

参加者は、第1回が80名(父兄を含めて約120名)、第2回が66名(父兄を含めて約85名)でした。両日とも第2臨床講堂で全体説明会[13:00~14:00、

歯学部長挨拶(宮崎教授)、歯学部教育の特色(山田教授)、卒後の進路(久光教授)、教養部の学生生活について(伊藤教授・井上教授)、歯学部入学試験について(井上教授)]の後、休憩を挟んで7グループに分かれて、歯科病院の見学[14:00~15:00]を行ないました。

本年度は歯科病院の改修工事と重なり、見学可能な施設が6か所に限られ、病院見学は過密なスケジュールであったにもかかわらず、ご協力頂いた先生方のおかげでほぼ予定どおりに進行了しました。

見学終了後、第1と第2臨床講堂に分かれて、個別相談会[15:00~16:00]が行なわれ、参加者からは入学試験(特に面接と小論文)、学費、クラブ活動などに関して熱心な質問がありました。参加者の中には数名の学士や高校1年生がいました。また、富士吉田での進学相談会にも参加していた生徒も見受けられました。進学相談会の運営にご協力頂いた17名の教員と5名の事務職員には心より御礼申し上げます。なお、「旗が岡祭」が行なわれている、10月16日(土)と17日(日)の両日には4学部合同の進学相談会を開催する予定です。



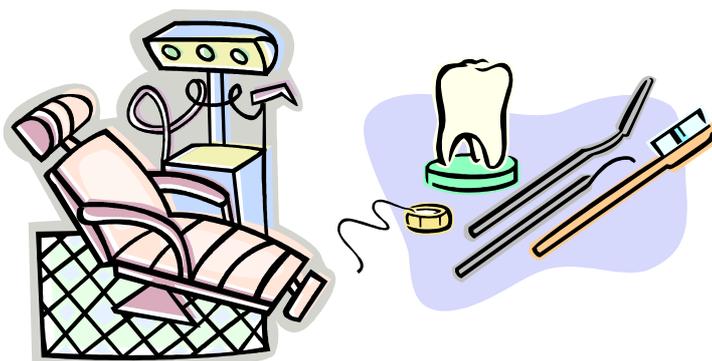
今年から臨床実習のオリエンテーションを少々、衣替えをしました。学生諸君が初めて患者さんを前にするときは、厳粛であってしかるべきであるということで、あえて「登院式」としました。そこで、私は学生諸君に次の3つのことを伝えたいと思いました。

1. 疑問を持つこと・考えること: 患者さんに接し、指導医の先生の対応をみているうちに、きっと「わからない」ことに出会います。もし気づかなければ、注意が散漫なのであって、疑問を抱くように心がけてください。そうすると必ず、自分の能力では解決できそうにない疑問点に出会います。診断であったり、治療の手順であったり、技工操作であったり、患者さんへの説明内容であったり、保険制度であったり、医療制度全体であったり、様々です。そうしたら、まず図書室へ行ってください。自身で調べ、自身で考えるのです。そして一応の解決を図ってください。翌日、担当の先生に相談してください。新たな疑問が生じたら、また調べ、考えるのです。こうしたことを一年間、繰り返してください。そうすれば、あなたは歯科医療をはじめめるにあたっての基礎体力をしっかりと身につけたこととなります。できれば、この過程をメモしておいて下さい。一生の宝になります。

2. 素直であること: 患者さんの「声」に耳だけではなく、「体」も傾けてください。いろいろな患者さん、とんでもない患者さんがいます。それを素直に受けとめる、深く大きな懐をつくれるよう心がけてください。まず患者さんを受け入れることです。患者さんがなぜ、このような歯の問題をもつようになったのかを理解できるようになります。患者さんとの協働作業として健康の回復を図るといふ、これからの歯科医にとって非常に大切な態度が身につきます。また、診療の合間にはできないこと、うまくいかないことに必ず出会います。そのときには素直に患者さんや指導医に、そのように告げるべきです。その場をごまかすようなことは絶対にやってはいけません。

3. 基本的な技能を身につけること: 患者さんが歯科医に望むことは何といても技術の高さです。一朝一夕では到達できませんが、これを修得するための第一歩を、いま踏み出したのです。患者さんとのコミュニケーション技術の重要さは前の項で述べました。う蝕予防の技術、う蝕の修復技術、歯内療法技術、患者さんに応じたブラッシング指導の技術、スケーリングの技術などは最も基本的なものであり、「身につく」レベルまではいけないまでも、「何とかできる」というレベルまでは是非とも到達して欲しいのです。咬合器をいじくりまわしながら、咬みあわせの回復に思いをはせるという観点から、この時期にこそ、積極的に技工をやって欲しいと思います。指導医の先生に希望すれば必ず、かなえてくれることでしょう。

充実した臨床実習ができたとき、1年後に学生諸君がいえるよう、お互いがんばりましょう。



この9月に、口腔生化学教室に復帰しました。私の留学先は New York University Medical Center, Department of Dermatology, 皮膚科の研究室です。歯胚は毛嚢同様に、上皮-間葉の相互作用により形成され、またエナメル芽細胞は上皮系細胞です。その様な理由から上皮系細胞の分化や、毛嚢形成機序の研究を活発にしている Dr. Sun のラボで、歯科と違う分野での上皮細胞研究を試みました。

ボスは台湾出身の先生で研究員の多くも中国出身の方で、同じアジア人としてなかなか親しみ易いラボでした。

毎年、クリスマスにはボスの自宅でパーティーがあり、春は近郊で BBQ, その他、正月など事ある毎に家族も含めた会食が頻繁にありました。しかし一旦仕事となると、土日も無い状況でした。

その中で私に与えられたテーマは、膀胱上皮組織特異的に発現する遺伝子の検索でした。具体的には Subtraction Screening 法を用い、膀胱上皮で発現する mRNA と、その他の組織で発現する mRNA の引算をして、特異的なメッセージを絞り込む作業です。Subtraction で引っ掛けた遺伝子断片の塩基配列はその後データベースで、既知遺伝子情報と照らし合わせます。未知遺伝子は、さらに全長のクローニングを試み、その遺伝子の、組織ならびに細胞レベルでの発現をチェックしていきました。その結果、膀胱上皮特異的に発現し細胞の増殖ならびに分化に関与する、幾つかの遺伝子の同定が出来ました。

留学ではこの研究結果以上に、実験の組み立て方や進め方など、研究を遂行する上で重要な Philosophy をこのラボで得る事が出来ました。また、この遺伝子ファミリーの一つが口腔上皮で発現するのが去年報告された事は、今後の研究を行う上でヒントになるかもしれません。最後になりますが、この機会を与えてくださった、上條教授、Prof. Sun さらに昭和大学に感謝致します。

写真は Sun 教授と須澤講師(上)、BBQ でラボスタッフと(下)



海外交流報告

口腔解剖学講座 近藤信太郎

昨年 9~12 月と本年 8~9 月、オーストラリア・アデレード大学 Townsend 教授のご指導のもと、大臼歯の遺伝学的な研究をする機会を得ました。アデレード大学の教育やオーストラリアの歯科事情については、すでに宮崎教授が紹介されましたので(歯学部だより7号)、ここでは Townsend 教授が統括する Craniofacial Biology Research Group の研究を紹介します。このグループの主要な研究は次の4つです。オーストラリア先住民(アボリジニ)の歯科人類学的研究: 歴代教授が Yuendumu の継年調査で得た石膏顎模型を使って研究が行われています(現在、調査は行われていません)。独特の形態と巨大な歯で知られるアボリジニの歯列は世界中の人類学者の注目を集めています。資料には親子や兄弟を多数含まれ、遺伝研究にも活用されています。双生児研究: Townsend 教授が収集された 600 組に及ぶ双生児とその家族の資料をもとに、口腔内形質の表現型への遺伝と環境要因の影響が研究されています。最近、歯全体の大きさだけでなく、咬頭の大きさや咬頭頂間距離など歯冠内の構造の遺伝要因が検討されています。

と は歯科人類学と歯の遺伝学がご専門の Townsend 教授ご自身が中心となって研究を進めています。機能形態学的研究: Richards 教授と Kaidonis 講師によって咬耗の研究が行われています。歯学教育に関する研究: Winnig 講師が、昨年度から本学にも導入された PBL(問題解決型学習)の研究をされています。現在、PBL における評価の研究を推進していますが、インタビューやアンケートによる学生の学習成果や意識も調査されています。

以上の主要テーマ以外にも多数のオーストラリア内外の研究機関との共同研究が並行して行われています。

Townsend 教授は 10 月末の歯科医学会総会で招待講演されます。この機会に本学では PBL の評価に関してご講演いただく予定です。また、12 月には Winnig 講師を招聘してセミナーを開催する予定と伺っております。今後、ますますアデレード大学との交流が深まればと考えております。

写真は右から Grant Townsend 教授、Tracey Winnig 講師と近藤講師。

* Townsend 教授の本校での講演は
11月2日(火)16:00~を予定しております。
ご聴講お待ちしております。
場所は後日ご連絡いたします。



学会開催

・南雲正男会長(顎口腔疾患制御外科学教授):
第41回日本口腔組織培養学会総会, 2004.11.20, 新高輪プリンスホテル
問い合わせ先: baiyo@senzoku.showa-u.ac.jp, 準備委員長: 岩瀬正泰先生

職員定期健康診断

労働安全衛生法及び学校保健法に基づき, 本年度も職員定期健康診断が行われます。
日時: 10月13日(水)・14日(木)・15日(金)・19日(火)・20日(水)・21日(木): 13:00 ~ 15:15
上記日程は, 男女共通日程で行われます。

レントゲン撮影:

男性: 10月13日(水)・14日(木)・15日(金): 10:00 ~ 11:15, 12:30 ~ 15:15

10月19日(火)・20日(水)・21日(木): 15:30 ~ 16:00

女性: 10月19日(火)・20日(水)・21日(木): 10:00 ~ 11:15, 12:30 ~ 15:15

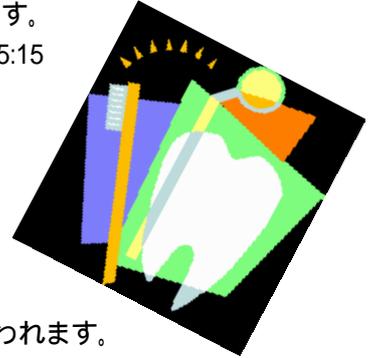
10月13日(水)・14日(木)・15日(金): 15:30 ~ 16:00

18日(月)・22日(金)においては男子13:00 ~ 14:10, 女子14:20 ~ 15:30で撮影が行われます。

場所: 12号館カンファレンスルーム(保健管理センター上), 12号館前レントゲン車

検査項目: 胸部レントゲン間接撮影・血液検査・尿検査・身体測定・血圧測定・視力測定・問診

*日時ご確認の上, 健康診断当日は, 昭和大学病院診察券(ID番号入り)または身分証明証を持参してください。



診療統計(平成16年8月分)

歯科病院長 川和忠治

区分	患者数	1日平均	前月1日平均	前年同月1日平均
外来患者延数	16,742	697.6	750.2	651.0
新患延数	1,236	51.5	50.1	51.0

教職員の声

広報委員長 佐藤裕二

旗の台の入院棟の前の喫茶店で, 学生らしき5, 6名が周りにお客様が多いにもかかわらず, 我が物顔で大声で叫び合っており, 非常に不快でした。と言うご注意をいただきました。学生であっても常に患者様から見られているということをしっかり理解してほしいと思います。

教職員の皆様からの声をお待ちしております。 sato@senzoku.showa-u.ac.jpまで。

行事予定

10月15日(金) ~ 17日(日): 旗が岡祭・いびき祭

10月16日(土), 17日(日): 4学部合同の進学相談会

10月15日(金), 16日(土): CBT試験問題ワークショップ(旗の台中央棟, 歯科病院)

10月19日(火): 解剖慰霊祭

11月15日(月): 創立記念日



編集後記

広報委員 野中直子(口腔解剖学教室)

これまでは佐藤広報委員長の大変なご努力により発行されてまいりました「歯学部だより」を, 今回より各広報委員(各講座)持ち回りで編集を担当する事になりました。その第1回目を申し付けました。編集委員長のこれまでのご負担とご努力を身に持って体験し, 勉強させていただきました。多々至らぬ点があったと思いますが, 若輩者であることに免じてお許しいただきたいと思っております。今後続く広報担当委員に心から声援をお送りし, 編集後記とさせていただきます。

次号は10月30日発行予定です。記事をお寄せください。